

北海道鉄道本部・夏季一時金交渉 前年を下回る回答に再考求める

6月5日にJR北海道の夏季一時金概況説明がおこなわれ、北海道鉄道本部の竹田委員長が出席しました。はじめに会社から、施策を全社一丸での取り組みに社員・組合員の皆さんが日々の取り組みに全力を尽くしていることへの謝意が述べられ「道内の経済状況は緩やかな持ち直しで、鉄道運輸収入も増加し不動産部門の増加があるものの、経営安定基金運用益などが35億円の減少と想定され、最終的に1億円の黒字と計画されている中で、輸送障害やインバウンド対応で奮闘する社員に伝えたい」という説明でした。組合からは、夏季一時金の配分の考え方について、物価高騰に苦しむ全ての社員・家族の生活を守る会社の責任を問うとともに、一律7万円を全ての社員に支給することで得られる会社への期待について述べ、将来不安の払拭が図られることを求めて第1回の団体交渉を終えました。

6月16日の団体交渉では夏季一時金の有額回答が示されました。支給月数は2.0か月分（前年は2.02か月分）で、エルダー社員については1/2条項を適用して1.0か月分とする低額回答でした。社員の奮闘に伝えたいといいながら前年を下回っていることを指摘し、物価高騰に苦しんでいるエルダー社員について別途対応を強く求めました。現場の「昨年より多く支給されなければ生活は維持できない」という声をふまえた再考を求めました。 【北海道鉄道本部 竹田吉宏】

遺族補償不支給取消求める「形石訴訟」 高裁も不当判決

6月2日に札幌高裁で、遺族補償不支給決定の取消を求める「形石訴訟」の控訴審判決が言い渡されました。判決は、原告側（控訴人＝遺族）が亡くなった形石さんの死因がじん肺による「右心不全（肺性心）」であるという循環器の専門医による意見書を新たに出しましたが、私病である「左心不全」によるものだとする札幌地裁の判決を追認する不当なものでした。弁護士と相談の上、最高裁への上告はしないことになりました。

パークゴルフ交流会に19人

北海道鉄道本部の初夏の恒例行事になっているパークゴルフ交流会を、6月15日に三笠市「サンパークゴルフ場」でおこない19名の仲間が参加しました。毎年、元気な姿を見せてくれた最高齢の滝川・畠山さんは、翌日に白内障の手術を控えていたため今回は欠席されました（畠山さんのお人柄でイベントが和みます、観楓会での再会を楽しみにしています）。インではフェアウエーの芝から水しぶきが上がるコースもあって打数がかさみ、アウトに入って芝生が乾きだして通常のプレーができるコンディションでした。そのような状況でも、堅実にプレーする皆さんの成績には影響は少なく、優勝は苗穂・最上さん、準優勝が苗穂・田中さん、三位には苗穂支部の表彰台独占を阻止した滝川・佐藤さんとなり、ブービー賞はパークゴルフデビュー戦の本部・越後さんでした。用意したホールインワン賞は一人もおらず、ラッキーナンバー賞に振り替えました。表彰式のあと、隣接する太古の湯に移動して昼食交流と温泉入浴を楽しみました。この日は、曇り空ながらも雨にはあたらず、リフレッシュができた一日でした。コメ価格の高止まりと物価高騰の影響から、用意した景品のお米は5kgから2kgへとコンパクト化になり、入浴料金も原油価格の跳ね返りで改訂されていました。

9月におこなう観楓会での第二戦で、苗穂支部の〈ワン・ツー〉を崩すために、熱中症に留意しつつ練習を重ねてください、多くの仲間のご参加をお待ちしています。

【北海道鉄道本部 竹田吉宏】